

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 一般 - 36

学校名・団体名	山ノ内町立山ノ内中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	ESDの推進と地域と連携した町作りへの取り組み
<b>〈活動・研究の意義および活動報告〉</b>	
<b>活動・研究の意義</b>	
<p>山ノ内町は昭和55年に志賀高原ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録され、さらに観光や地場産業の振興、ユネスコエコパークの活用に向け検討するなかで平成26年にゾーニング変更が認められほぼ町全域がユネスコエコパークとして認定された。そのことと合わせる形で町内の小中学校もユネスコスクールへの加盟が認められた。ユネスコエコパークの自然や歴史、文化、現状と課題などを学習した地域の方と共に交流し合うことで未来の自分づくり、地域づくりへの新たな価値観や行動を生み出す生徒の育成を願っている。ESDを推進するにあたっては長野県内に先進校といえる学校がなく、県外先進校への視察や大学での研究者を招いての校内研修を行い、ESDの理念や事例に学び、またSDGSの理念「Leave no one behind」を日常レベル・授業レベルでも実践すべく日々の授業こそ協同して学び合うスタイルへ積極的に取り組んでいくことを通して、人や社会、自然との関わり・つながりを尊重できる生徒を育てていきたいと考えた。</p>	
<b>活動報告</b>	
<b>(1) 探求的な行事への移行</b>	
<p>本校ではこれまでに長いこと1年キャンプ、2年登山の宿泊行事を行ってきた。ユネスコスクール加盟申請を機に行事を総合的な学習の時間やESDと関連させたものにしようと2,3年かけてねらいや目的地を下記のように一新した。かつての集団訓練的、集団行動的な要素を少なくしESDの課題にそった探求型行事に移行し、与えられる学習から求める学習への転換を図った。修学旅行を例にするならば従来かなりの時間を歴史や神社仏閣についての事前学習に割いてきたが、生徒の興味関心をもとにした課題別グループを組み個やグループの課題に沿ったタクシーでの研修旅行の要素を盛り込んでいる。1、2年の宿泊行事も自ら学ぶ探求型の要素を含みその学年での学びを次につなげようとした。</p>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・1年 巢鷹湖キャンプ → 志賀研修旅行 志賀高原ユネスコエコパークの学習</li><li>・2年 唐松岳登山 → 草津研修旅行 志賀高原ユネスコエコパーク内の隣町での学習</li><li>・3年 修学旅行 → ESDの視点を取り入れ町観光大使の使命を帯びた修学旅行</li></ul>	
<p>行事の変更に伴い総合的な学習の時間の内容もそれにリンクする形で内容を検討し再編成した。</p>	
<b>(2) 職員研修</b>	
<p>職員には積極的に先進校の取り組みやユネスコスクール全国大会、ユネスコエコパーク交流会、信州ESDコンソーシアムへの参加を促し、ESDやSDG'Sについて学びを深め学校教育に生かすようにした。また、ESDに造詣の深い講師をお招きし生徒への講話、職員研修を通して本校の取り組みへの指導助言を仰ぎ、めざす方向や今なぜESD、SDG'Sなのかといったことの示唆をいただいた。</p>	
<b>(3) 行事を中心にしたESDの実践</b>	

#### ①ふるさとを知る活動 地域自慢の旅（1年）

1年生は3小学校でのふるさと学習の成果を生かし、一学期に各地域の魅力について小グループを編成し取材活動や現地調査し他の生徒たちに伝える活動を行った。二学期には学級ごとに町バスを借りて地域自慢の旅に出かけ農業や観光業を営む方を講師としてその生き方に触れ地域の魅力や課題を知り、その成果を文化祭や信州ESDコンソーシアムでのワークショップや発信に生かし、2年草津研修旅行、3年町作り討論会につなげようと考えた。

#### ②草津研修旅行（2年）

同じ志賀高原エコパーク内にある草津町に研修旅行を行い、観光や施策面で山ノ内町との相違点を比較調査し外から山ノ内町を見つめることにより山ノ内町の魅力や課題を再発見できるのではないかと考えた。元草津町長からの講話や草津町で営む旅館やお店の方への取材活動、観光客への聞き取り活動などを通して観光や町作りへの考え方を知ることができた。山ノ内町と草津町と同じ温泉町ではあるが違いが鮮明となり山ノ内町のよさや課題を改めて捉え直すよい機会となった。

#### ③観光大使としての使命を帯びた関西への修学旅行

京都長野県人会、長野県大阪事務所の方々とも協力しながら、観光大使としての役割を担い町から預かった観光パンフレットや自作の観光パンフレットを配布しながら町のPR活動を行った。調査活動では京都らしさを生かしたおもてなしの心や伝統に根差した京料理など「食文化」「体験」「泊」「観光」などそれぞれのテーマについて地元山ノ内や草津と京都とを比較し、京都、山ノ内町のそれぞれのよさや課題を感じ取る活動となった

#### ④「中学生が夢見る町づくり討論会」の試み（3年）

1年地域自慢の旅、志賀研修旅行、2年草津研修旅行、3年修学旅行の成果を、地域の方々と町の未来について考え合う場を設けたいと考えた。参加していただいた方は町長、副町長、町議員、観光課、農林課、観光組合、観光連盟、観光協会、商工会、JA職員など。振り返りの場面では「観光客だけにPRするだけじゃなくて自分たちがもっと山ノ内町のことを知って誇りをもつことが大事だと思う。スノーモンキーなど地元にあるものほど見ていないんじゃないか？いつも当たり前のように見ているけど旅行にきたつもりで山ノ内町を見てみると違って見えると思う。」「今日は山ノ内町の魅力を改めて感じた。その（施策）裏にその人の願いや思い、意図がある。表面的に伝えるんじゃなくて物事をちゃんと見てから伝えるようにしたい。」などと語り、住みやすい町づくり、観光客に喜んでもらえる町づくりに向けた多くの人の願いや思いに直接触れることができた。



#### (4) 成果と課題

3年間のESDの活動を振り返って生徒たちは「浅く見たら山ノ内は何もないかもしれないけど、ESDの活動をして深く見たら山ノ内もいいところがたくさんある。」「3年間を通して身近なところからはじまり、少しずつ広がりながら山ノ内のPR、課題を見つけるなど様々なことができてよかった。将来の日本にあった山ノ内を創っていきたい。」と綴っている。「何か新たなこと・人目を引くようなこと・特別なこと」への視点から「今ある山ノ内、今ある身の回りの自然や風景、温泉や文化そのものに価値があって、何か特別なことをやらなくてもそのままいい。」「自分にとって当たり前と思っていたことがかけがえない尊いものとして思えるようになってきている」というように見方が広がり、地域への誇りや愛着をもち、ふるさと山ノ内を自分たちが主体となって創っていく、仲間や地域の方との対話を通して未来を創っていく、といった意識が芽生えてきているように感じている。今ある地域の活動や教育活動をESDの視点でとらえ直してカリキュラムマネジメントしていくこと。そしてその背景にはどのような理念や哲学がありどこをめざしてのESDなのかを常に教師自身が学び続け明確にしていく必要を感じている。生徒の育ちの姿を共有しながら励みとし、生徒・職員とともに探究していく、そんな学校づくりに励みたい。